

令和3年度 小垣江小学校 学校評価アンケート結果

番	保護者アンケートの質問内容		回答者	上段:保護者 下段:児童 ※グラフについては、R2は、左から「1そう思う」「2どちらかといえばそう思う」「3どちらかといえばそう思わない」「4そう思わない」「5無回答」R3は左から「1あてはまる」「2どちらかといえばあてはまる」「3どちらかといえばあてはまらない」「4あてはまらない」「5分からない」という評価をいただいた割合です。 本年度から「5分からない」が新たに加わりました。		※グラフの1・2を合わせた割合が、80%以上をA、60%以上をB、それ以下をCと判断しました。
1	学校は、お子さんに勉強や運動などで楽しんで活躍する場を作っていますか。	R2	保護者		A	保護者・児童ともに学校は楽しく、活躍できる場所があると感じている。コロナ禍でもおよそ90%の児童が「あてはまる」と答えており、今後も、児童にとっても学校が楽しい場所だと感じられるようにするため、一人一人の居場所や活躍の場をつくるなど、きめ細やかな配慮をしていきたい。
	学校は楽しく、勉強や運動など学校生活は充実していますか。	R2	児童		A	
2	学校は、子どもたちが自他の命を大切にする活動を積極的に行っていると感じますか。	R2	保護者		A	「分からない」という選択肢が加わったため、保護者・児童ともに「分からない」と答えた割合が多い。特に保護者については20%が「分からない」と答えた。児童については、「命を大切にする」という目に見えないものを問われているため、自分では大切にしているつもりでも自信がなく「分からない」を選択していることも考えられる。今後さらに児童の「命を大切にする行動」や「思いやりのある行動」を認め、命の大切さや思いやりの心を育む教育を積極的に行い自信につなげるとともに、保護者にも活動の内容を伝えていきたい。
	自分や友達、身近な生きものの命を大切にし、友達に思いやりの気持ちをもって接するよう心がけていますか。	R2	児童		A	
3	お子さんは、自分自身でよいところがあると思っていますか。	R2	保護者		A	今年から新たにできた項目である。85%の保護者が「子どもが自分自身でよいところがあると思っていると思う」と答えた。一方児童は、75%が「よいところがある」と思っているが、15%の児童が「分からない」と答えた。実際にはよいところがたくさんあっても、児童自身が自分のよさに気付き、自信をもつことは難しいためと考える。周りの大人が、子どもたちのよさを認め、褒めることにより自信がもてる子どもたちを育てていきたい。
	自分にはよいところがあると思いますか。	R2	児童		B	
4	先生はお子さんのよいところを認めたり、褒めたりして感じますか。	R2	保護者		A	昨年よりも、先生たちがよいところを認めたり、褒めたりしてくれていると感じる児童が増加した。今後もさらに多くの児童の自己肯定感・有用感が増し、自信をもって様々なことにチャレンジして充実した学校生活を送ることができるよう、学校全体で児童の頑張りやよさを認め、児童の自己肯定感・有用感を高めていきたい。
	先生たちは、自分がかんばったとき、認めたり、ほめたりしてくれますか？	R2	児童		A	
5	お子さんは、ありがとうと言えるようになってきていますか。	R2	保護者		A	保護者・児童ともに、「あてはまる」が増加した。児童の中には「分からない」と答えるものもいた。児童が自分自身の「ありがとう」の言葉を自覚できるよう周りの大人が児童の「ありがとう」の言葉を認め、褒め、大人もまた進んで感謝の言葉を述べることにより、「ありがとう」が言える子を育てていきたい。
	ありがとうが言えていますか。	R2	児童		A	
6	お子さんは、なかよく事故に遭わないように登下校していますか。	R2	保護者		A	保護者・児童共に、なかよく事故に遭わないように登下校していると答えている。交通指導員さんや地域の方の毎日の見守り、0の日の保護者の方のあいさつ運動など皆さんの温かい見守りのおかげであると思われる。今後も児童がなかよく安全に登下校できるよう、通学団等でのトラブルに対して初期対応、児童に寄り添った指導を心がけていきたい。
	交通ルールを守って、なかよく登下校していますか。	R2	児童		A	

7	先生は分かりやすい授業を工夫してくれていると思いますか。	R2	保護者		A	児童の「あてはまる」が増加した。昨年よりも、話し合いをして考えを深め合うなど日常の授業を行うことができたり、児童の実態に合わせてじっくりと授業の進めることができたことなどがその一因として考えられる。今後も、児童の学習意欲の高まる授業をできるよう教師自身が研鑽していきたい。
	先生は、分かりやすい授業を工夫してくれていますか。	R3			B	
8	お子さんの話の様子から、学校はいじめ問題にも素早く対応していると感じますか。	R2	保護者		A	児童の「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」が増加した。今後も、いじめが発覚したり、気付いたりしたときに教師を信頼して相談ができるよう、人間関係を構築していきたい。また、保護者の信頼が得られるように、学校で起きたことや対応について迅速に伝えていきたい。今後も生活アンケートや児童の訴え、保護者からの情報などに真摯に耳を傾け、全職員で協力し、情報の共有を図りながら迅速かつ的確な対応をしていきたい。
	友だちと楽しく生活できており、いじめはいけないう気持ちで毎日生活をしていますか。	R3			C	
9	授業参観やお子さんの話から、道徳の授業や心の教育がしっかりと行われていると感じますか。	R2	保護者		A	道徳の授業がどのように行われているのか、授業の内容や授業を通して児童がどのように考えをもったのか、保護者に伝わりやすく、保護者の中で分からないという回答が20%を超えた。また、児童も10%が分からないと答えた。児童の実態に合う、心に訴えるような題材選びをし、自分事として捉えた話し合いを行っていきたい。また、授業を通して学んだことを生活の中で生かしていけるように声をかけていきたい。
	道徳の授業では、自分の意見を言ったり友だちの意見を聞いたりして、よく考えている。また、道徳の授業で学んだことを実行していますか。	R3			B	
10	お子さんは栄養のバランスを意識して、家庭の食事や給食を食べていますか。	R2	保護者		A	昨年度から食育推進を進めている。委員会活動や食育にかかわる授業、栄養教諭による給食訪問など様々な取り組みから、90%の児童がバランスよく食べようと意識している。保護者の「あてはまる」が増えたことから、学校での食育の取り組みが家庭に伝わっていることが分かる。今後も、児童の成長に大きくかわる食育を家庭と手を取り合いながら進めていきたい。
	食まるファイブを意識するなどして、食事(給食)をバランスよく食べていますか。	R3			A	
11	長放課や体育の授業、運動会や部活動などを通して、学校は子どもたちの体力向上に努めていると感じますか。	R2	保護者		A	児童の回答は昨年と比べて、ほとんど横ばいである。しかし、人と接触する遊びが規制されたり、遊具や道具を使った遊びができなかったりしたことも影響してか、「分からない」と答えた児童も10%弱いた。コロナ対策をとりながら、児童の体力向上に向けての取り組みを続けていきたい。
	長放課や運動会、体育の授業、部活動で体を動かし、体力がついてきたと感じますか。	R3			B	
12	学校は、ホームページや学校だより、行事予定表、学年だより、きずなメールなどを通して、学校の様子がよくわかるように保護者に伝えていますか。	R2	保護者		A	児童の、「分からない」が10%を超えた。低学年など、学校からのお便りを自分で読んだり、ホームページを自分で見たりといったことがしにくいために、伝わりにくいことも考えられる。ホームページの内容を充実させたり、児童が必要とする情報の充実や、学校の様子が伝わるような情報提供を図ってきたい。今後も、必要な情報をきずなメールやホームページ、学校便りなど、タイムリーに情報発信していきたい。
	ホームページや学校だより、行事予定表、学年だよりや毎日の連絡などで、学校や学年の行事の予定がよく分かりますか。	R3			A	